

機関番号：33805

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20700506

研究課題名（和文）日韓プロサッカー観戦者の消費動機と市場細分化に関する研究

研究課題名（英文）Comparative Analysis of Spectator Motives and Marketing Segmentation Between South Korea and Japan

研究代表者

元 晶ウク（Won Jung-uk）

静岡産業大学・経営学部・准教授

研究者番号：50460514

研究成果の概要（和文）：本研究は、日韓プロサッカー観戦者の観戦動機が同時に測定できる尺度項目を開発することと、それをを用いて両国サッカー観戦者の観戦動機比較を行ない、その相違と類似点を明らかにすることを目的とした。調査の結果、開発された尺度は、日本と韓国のサッカー観戦者の動機を同時に測定できる妥当性と信頼性の高い測定項目であることが明らかになった。また、両国観戦者の観戦動機平均値の差を多変量分散分析によって検証した結果、Kリーグ観戦者はドラマ、家族、選手動機の平均得点、Jリーグ観戦者は達成、娯楽、技術動機の平均得点が有意に高いことが明らかとなった。Kリーグ観戦者はスポーツ自体より、レジャーやレクリエーションの手段としてサッカー観戦を行うことに対し、Jリーグ観戦者はスポーツ自体の魅力を求めて観戦を行う特徴が確認された。また、両国のサッカー観戦者の主な観戦動機は達成、娯楽、ドラマ、逃避であることが明らかになった。さらに、選手個人の魅力に関する動機はサッカーのような団体種目においてはそれほど重要な動機として作用しないことも確認された。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to refine and further develop existing motivation scales (i.e., MSSC by Trail and James, 2001; SII by Funk, Mahony, Nakazawa, & Hirakawa, 2001) in a cross-national context, and to examine differences of descriptive variables (e.g., demographics, attendance frequency) and spectator motives between South Korean and Japanese professional soccer spectators. We confirmed that the refined motivation scales we developed were valid, and that they reliably measured Korean and Japanese soccer spectators' motives. We also found that there were several differences in demographics, attendance frequency, team identification, and spectator motives.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	830,000	3,630,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学・スポーツ科学

キーワード：①観戦動機、②市場細分化、③Kリーグ、④Jリーグ、⑤スポーツ観戦

1. 研究開始当初の背景

スポーツ観戦者の消費動機は、観戦者が何を求めてスタジアムに観戦に行くのかに対する答えであり、観戦者のマーケティング研究において非常に重要な研究課題である。しかし、日韓両国ではまだ観戦動機を測定できる妥当性や信頼性のある尺度開発がされていないなど研究課題が山積していると考えられる。特にスポーツ観戦者の国際比較は本研究が初めての試みといえる。

2. 研究の目的

本研究はWon and Kitamura(2006; 2007)が日本のJリーグと韓国のKリーグ観戦者の消費動機を解明するために開発した観戦動機尺度を用いて、(1)両国サッカー観戦者の消費動機比較を行い、その相違と類似点を明らかにする、(2)両国サッカー観戦者の消費行動変数(観戦回数など)と消費動機の間を確認する、(3)消費動機によって両国サッカー観戦者を細分化し、それに基づいてセグメントプロフィールを作成することを目的としている。

3. 研究の方法

そのため、日本のJリーグと韓国のKリーグチームを対象に、マーケティング担当者や経営責任者のインタビュー調査や観戦者の質問紙調査を実施した。

4. 研究成果

その結果、(1)Won and Kitamura (2006; 2007)が開発した観戦動機尺度の妥当性や信頼性が再確認された、(2)韓国Kリーグ観戦者は個人的ベネフィットに関する動機が高い得点を示したことに對して、Jリーグ観戦者はゲーム自体や試合結果に関係する動機に高い得点を示し、統計的有意差も確認された、(3)両国観戦者共に、チーム・アイデンティフィケーションが観戦回数やマーチャンダイジング商品の購入意欲などにポジティブな影響を及ぼすことが明らかにし、現在、本研究で得られた結果を経営現場に応用するために、消費動機によってプロフィールを作成し、その有効性について各チーム関係者と協議を重ねている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

①元晶煜 韓国プロサッカー観戦者の消費

行動特徴に関する研究－Kリーグ観戦者の人口統計学的特徴、観戦動機、観戦ニーズを中心に、環境と経営、査読無、第14巻、2008、
②Jung-uk Won Comparative Analysis of Spectator Motive between J-League and K-League、アジアスポーツ産業協会フォーラム論文集、査読無、Vol.4、2009、40-48
③ Jung-uk Won Characteristics of Japanese and Korean Sports Markets、韓国漢陽大学校創立70周年記念論文集、査読無、Vol.1、2009、21-30
④Jung-uk Won Comparative Analysis of the spectator Motives between J-League and K-League、The 6th ASIA Seoul International Sport Industry Forum 2010 記念論文集、査読無、Vol.6、2010、40-48

[学会発表] (計1件)

①Jung-uk Won Characteristic of Japanese and Korean Sports Markets、韓国スポーツ産業国際フォーラム、2010.9.28、漢陽大学校(韓国ソウル市所在)

[図書] (計3件)

①元晶煜 他 体育経営管理の理論と実践 第1版(韓国語) 図書出版ソウル企画、2008、423

②元晶煜 他 体育経営管理の理論と実践 第2版(韓国語) 図書出版ソウル企画、2009、250

③元晶煜 他 スポーツ経営の理論と実践 (韓国語) 図書出版ソウル企画、2010、400

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

元 晶ウク (Won Jung-uk)

静岡産業大学・経営学部・准教授

研究者番号：50460514

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：